



安行小だより

安行小学校 9月号

令和4年9月1日

目指す学校像

よさを認め、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校



自然の中で生きている

校長 春川 嘉孝

夏休みが終わり、子供たちの元気な姿が戻ってきました。1か月にも及ぶ長い夏休みをどう過ごしてきたのか「一学期よりも、もっとよくなるぞ」、そんな気持ちで9月をすごせるようにしてまいりたいと思います。

夏休みの間、猛暑日は最長を更新、日本各地で豪雨による被害、日本のみならず世界各地で洪水などの被害等、自然災害が続きました。被害にあわれた方々にお見舞いを申し上げます。このような自然災害のニュースを聞くたびに「異常気象」「気候変動・気候危機」という言葉が出てきます。その要因が人の生活に関係しているとも言われます。

「人が生きるためには、水と食物が必要である」とし、干ばつのアフガニスタンに用水路をつくった医師中村哲さんの

「自然を無限大に搾取できる対象として生活を考え、謙虚さを失っていなかったらどうか。自然はそれ自身の理によって動き、人間同士の合意や決まり事と無関係である」

という言葉が思い出されます。

また、気象予報士の天達武史さんは、

「地球の平均気温が1℃上昇するというのは、これまで1000年単位で起きたこと。これが今、たった100年で起こってしまっている。つまり、昔と比べて10倍のスピードで温暖化が進んでいる。その余波として異常といわれる大雨や猛暑、干ばつなどが世界各地で起こっている」

と話されています。

自然を大切にしていくこと、自然の中で生きていること、自然が与えてくれるものに感謝しながら生活すること、そして、人は、自然と共に生きていることに気づきます。

「二百十日」という言葉があります。これは、立春から数えて210日目の日、台風などが発生し、稲の開花時期と重なり、農家の方に注意を促すために暦に記載されるそうです。

9月は防災月間。1927年に関東大震災が起こり、また、台風などの災害が多いことから、この一か月を防災月間として制定されているとのこと。地震も自然の営みです。

「防災」を「自然災害」と関連付けけたとき、一方で、そこには「人の熱い情熱」が感じられます。各地で起こる災害、被災された地域の人々の生活を支える活動。「自然」に人は勝てない。自然の驚異を知ったとき、人は人の力で支えられ、克服していこうとします。活動への気持ちを動かすのは「自分ができることをする」「誰かがやらなければならないのなら自分がやる」という心です。前述の中村さんも「目の前で困っている人を見捨てるわけにはいきません」と話されています。

自然豊かな安行の地で、自分のよさや得意を見つけ伸ばしていくこと、自他を思いやる豊かでたくましい心をもてるようにすることで、子供たちが「実りの秋」を迎えられるよう、教職員一同、力を注いでまいります。家庭・地域の皆様、今学期もよろしくお願いたします。